

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol, caffeine and smoking in relation to age at menopause. アルコール、カフェイン、喫煙の閉経年齢に及ぼす影響	
執筆者	
Kinney A, Kline J, Levin B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Maturitas 2006; 54:27-38.	
キーワード	
閉経、アルコール、カフェイン、喫煙、疫学	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>閉経年齢に影響を与える要因については、喫煙以外は、一致した結果が得られていない。そこで、コホート研究を用いて、飲酒、喫煙、カフェインの閉経年齢に与える影響について検討した。</p> <p>方法：</p> <p>1993年に44-60歳の女性494名を追跡した。1997年を最終追跡年とし、閉経が生じる年月を4ヶ月おきに調査した。追跡開始時のインタビューで、6ヶ月前のアルコール摂取状況とカフェインの摂取状況を調査した。したがって、インタビュー時点で閉経していても、それらのインタビューにおけるアルコールとカフェインの摂取状況は閉経前のものとした。喫煙については、喫煙開始と終了、および喫煙量を調査した。</p> <p>結果：</p> <p>ロジスティック生存分析の結果、週5-6日飲酒する場合は、飲酒しない女性に比して、閉経年が2.2年遅かった。週1日の飲酒でも、1.3年遅くなった。カフェインの摂取量と閉経年とは関連がなかった。1日14本以上の現在喫煙者では、非喫煙者に比して2.8年閉経年が早くなった。毎日1-13本の喫煙者と過去喫煙者では、非喫煙者と同じ閉経年であった。</p> <p>結論：</p> <p>本研究の結果は、中等度の飲酒がプロエストロゲン効果、14本以上の喫煙は抗エストロゲン効果をもつという生物学的なメカニズムと一致していた。</p>	